

# 公益信託世田谷まちづくりファンド

## 第27回助成事業 審査講評

### まちづくり活動部門

#### 【1回目応募グループ】

##### < 2-2 ピンクシャツデーNIPPON >

- ・長年、いじめや不登校の問題に取り組んでこられ、今回はそれらの経験や人とのつながりをもとにさらに活動を充実させたいとファンドに応募されました。外部の会場を使い、イベントを企画されるとの応募書の中に、コスプレとあるのをみて、なぜ？と疑問に思いましたが、当事者の方の声からの発案と聞いてなるほどと思いました。イベントの規模はたとえ小さくても、いじめや不登校の経験者の皆さんと企画や準備、そして当日の運営までを一緒にすすめられたらとても素晴らしいと思います。また、今回のイベントを通して得られた経験や新たな出会いをぜひ、日々の活動に還元してください。

##### < 2-3 下北沢 リンク・パーク >

- ・シンプルですが強固で可能性を感じる事業だと思います。また地域のステークホルダーとの関係性も築きながらの着実なプロセスも素晴らしいと思います。ぜひ、世田谷まちづくりファンドのコミュニティを活かしていただき、更なる連携を広げていただけると幸いです。

##### < 2-4 みんなでごはん ひるごはん >

- ・子育て応援の中で掘り起こされた課題を、見守りながら食事を共にすることで、不安や悩み解消に役立ててもらい、集いと共有の場作りに期待致します。

##### < 2-5 みんなの学び舎 >

- ・地域に潜在している「教えたい」という資源を子どもたちにマッチン

がしていく提案です。すでにある地域資源をうまく使いながら立ち上がってきた団体であり、これからもより深く、地域の様々な資源を掘り起こし、マッチングしていく活動が期待されます。満額助成で審査員の気持ちもこもっていますので、大きな成果を期待しています。

## < 2-6 H a p i p r o ( L i f e i s h a p p y p r o j e c t ) >

- ・ハンドスタンプの取り組みは、誰もが簡単に参加できる素敵な取り組みだと思います。学生ボランティアだけでなく、地域の町内会や、芸術活動を行っているご高齢者グループなどにもお手伝いいただくことができれば、普段あまり接点の無いまちの方々のご理解も深めるきっかけになるかもしれません。
- 世田谷全地区での製作を予定していますが、全ての地区で実施することを優先しなくて良いと思います。1回1回の製作について、それぞれ連携したい方々と相談しながら、より良い形で実現してください。

## < 2-7 女性起業家交流会 L . W e 【エル．ウィー】 >

- ・ライフイベントの影響を受けやすい女性にとって、自分でハンドリングできる起業は女性にあった働き方の一つと言えます。女性たちがつながることで孤独に陥らないことはもちろんですが、「地域の中でともに育ちあう」ような、お互いの事業に貢献でき、地域に還元されるような起業家ネットワークとなっていくことを願っています。

## < 2-8 おでかけサポーターズ >

- ・必要とされている方も多いことと思われます。23万円と言わず、上限まで助成金を申請していただくくらい、活動が発展することを願います。その上で、おでかけをサポートされた側がなにをするのか？ ということについて、もっと議論を深めたかったと思います。まずはそこから、というのは重々承知した上でですが、サポートされた側の感想が、買物ができて便利だった、梅まつりや水上クルーズで楽しかった、といった感想で終わっているケースが多いようでしたら、注意が必要だと思います。サポートを受ける方々がそのポジションに固定されるのではなく、自分もまた、でかけることで誰かのサポートになっている、

誰かを喜ばせることができている、ということがなければ、「出かけて楽しい」すらも長続きしないのではないかと心配です。

#### < 2-9 0歳からの音楽会実行委員会 >

- ・地域との関りをもっと深くしたり、他団体との交流をする事で活動の幅が広がっていくと思います。収入を増やすために単に広い会場で開催すると支出も増えるのでスケールに見合った工夫をして下さい。他団体と繋がることで新しい道が見つかるかもしれません。2016年から活動されているので助成金が無くても継続出来る運営を目指してください。

#### < 2-11 記憶をつなぎ人をつなぐ世田谷区庁舎をのぞむ会 >

- ・建物を通して人と人が繋がるまちづくりを考える。また未来に記憶として残す活動に取り組むことで、新たな地域活動が生まれる。先の展開に期待を感じます。

#### < 2-12 平井さんちの縁側チーム >

- ・昨年度のはじめの一步部門の活動を終えて、メンバーも新しく加わるなど、少しずつ活動の幅が広がっていると思います。今年度の活動も、メンバーや昨年つながった人の得意なことを活かしたものになっていて、無理なく続けていける体制が整って来ていると感じました。ただ、今後どのように展開していくのか具体的に考える必要もあるかと思えます。目標に掲げる「平井邸の継承」とは、具体的にはどういったことなのか考え、その目的に向けて活動をどのように展開させていくのか。まちづくりファンドの今後も含めた助成期間に何をどこまで達成させるか、今年度終了までに見えてくるとよいと思います。